

ベルリンの壁

人間というものは、良く壁を作りたがります。

壁といえば、中国の万里の長城が有名ですが、これ以外にも、かつてヨーロッパや中国大陸などでは、数多くの都市が城郭によって守られていました。また、南アフリカ共和国のアパルトヘイトのように、見えない壁もありました。

このように、壁は、外敵から身を守るために、また、自分と異なる人々を排除したり、隔離したりするために作られています。

これに対して、ベルリンの壁は、自国民を囲い込むために作られたという点で、特異です。

今から50年前の1961年8月13日、東ドイツ政府によって東西ベルリンを隔てる壁が作られました。この壁は、ドイツ分断の象徴であると同時に、1989年11月10日に破壊されるまで、東西冷戦の象徴でもありました。

1945年5月8日、第二次世界大戦でドイツは降伏します。この時、ドイツは東西に分断され、西は米・英・仏の自由主義国側が、東はソ連が占領します。また、ベルリンも同様に東西に分断され、西ベルリンは自由主義国側が占領しました。この西ベルリンに対して、回りを全て取り囲んでいた東ドイツ側からは自由を求めて、数万とも数十万ともいわれる人々が大量に逃亡する事態となり、これに危機感を抱いたソ連共産党と東ドイツ政府は、住民の流出を防ぐ為に壁を建設したというのが、大凡の経緯です。

しかし、ベルリンの壁が建設された後も、西側に逃れようとする人々は後を絶たず、壁を越えて西ベルリンに行こうとした多くの住民が東ドイツ国境警備隊に逮捕され、また、射殺された人も190名を超えるという悲劇を産みました。

こうまでしなければ維持できない国家が、国家として永続できるはずはありません。

1989年に入ると東ヨーロッパ諸国は相次いで民主化されていきます。そして、同年5月ハンガリー政府がオーストリアとの国境を開放すると、東側陣営の優等生といわれた東ドイツにおいても民主化の波は加速し、遂に、同年11月ベルリンの壁は崩壊します。崩壊の瞬間は、あっけないものでしたが、東西冷戦の時代から新しい時代の幕開けを告げるものとなりました。

このベルリンの壁が崩壊したまさにその時、私は、スペインからアメリカに渡るため飛行機に乗っており、飛行機の中で歴史的事実を知りました。その瞬間、その場に立ち会えなかったことは残念でしたが、これから世界が変わるという思いを強くしたものです。

残念ながら、今日においても、朝鮮半島を南北に分ける38度線や、イスラエルがパレスチナとの境界に建設を進めている分路壁のように、人間の手によって作られた壁があります。

壁にはそれぞれに大義名分があります。しかし、膨大なエネルギーをかけて維持し、守ろうとするものは何なのでしょう。それは、壁を作ることでしか守り得ないものなのでしょう。

私は、いつの日か、地球上の人々が壁など必要とせずに暮らしていける時代の来ることを信じたいと思います。(塾頭 吉田 洋一)